

向陽 SSH NEWS 第13号



編集：向陽高校SSH事務局

第56回日本学生科学賞県審査、2組が受賞

読売新聞社賞

「郵便切手問題」

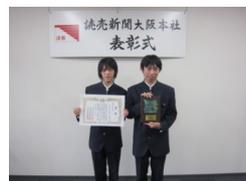
県商工会議所連合会長賞

「生分解性プラスチックを分解する糸状菌の探索」

11月10日(土)、第56回日本学生科学賞県審査の表彰式が、読売新聞和歌山支局で行われました。

本校からは、昨年度の研究をまとめた論文を応募し、数学ゼミと生物ゼミの2グループ(現3年生 環境科学科)が受賞しました。

数学ゼミの「郵便切手問題」グループは読売新聞社賞を、生物ゼミの「糸状菌の探索」グループは県商工会議所連合会長賞をそれぞれ表彰されました。



数学ゼミ
郵便切手グループ



生物ゼミ
糸状菌グループ

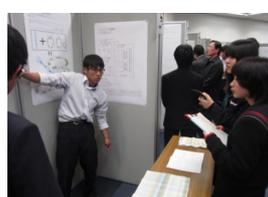
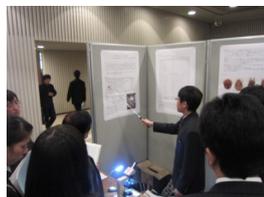
平成24年度和歌山県高等学校生徒科学研究発表会 同時開催：親と子どものためのきらめき“夢”トーク 課題研究発表「最長しりとり」 優秀賞受賞

12月20日(木)、平成24年度和歌山県高等学校生徒科学研究発表会が和歌山市民会館で行われました。この発表会は、県内スーパーサイエンスハイスクール3校(海南高等学校・日高高等学校・向陽高等学校)と理数科系専門学科のある学校の生徒、および理数分野に関する課題研究実施校の生徒の交流を促進し、理数系分野における今後の活動の拡大、充実を図ることなどを目的として開催されています。

本校からは、環境科学科2年生「SS探究科学Ⅱ」の課題研究17テーマと物理部、理学部が研究のポスターセッション発表を行いました。また、化学ゼミ「梅仁油の抽出とその性質」、数学ゼミ「最長しりとり」の2テーマが舞台上で口頭発表を行いました。環境科学科1年生も参加し様々な発表を聞きました。1年生は、来年度取り組む課題研究についてのヒントをつかんだようです。また、ポスターセッションで発表や他校生徒の発表に真剣に耳を傾けることで、2年生、1年生ともに他校の生徒との交流を深めていました。全体会の中でも、生徒達は積極的に質問し、発表者と議論を交わしていました。

「親と子どものきらめき“夢”トーク」も同時開催され、東京大学分子生物学研究所准教授の泊幸秀先生による講演「分子の世界から見た生き物のしくみ」をお聴きしました。DNAやRNAについて基本的な事柄から、世界最先端のRNAの研究まで幅広く説明していただきました。

表彰式では、多数の発表の中で、本校からは数学ゼミの「最長しりとり」が優秀賞を受賞しました。



「科学の甲子園 和歌山県予選：きのくに科学オリンピック」に向けて

「科学の甲子園」の県予選に本校の環境科学科の7名が“チーム FIFTH”として参加しています。内容は、筆記競技と実験・総合競技の合計点で審査されます。

筆記競技の部については11月4日に開催され、生徒達は難問に取り組みました。

総合・実験競技は2月10日(日)に開催されます。総合実験競技の部については、特別な課題に対し、実験をしてその課題を解決していく競技となります。出場する選手達は、これまで科学力向上講座に数回に参加し競技力を高めてきました。

出場生徒のみなさん大会までさらに力を蓄え、精一杯がんばってください。

